

10月31日から11月19日までの期間、地域懇談会として第3回「市長と語る会」が市内5会場で開催され、延べ265名の市民の皆さんが参加しました。

冒頭、市長から5月に開催された「市長と語る会」で話があった「産業」「教育、子育て」「コミュニティ、生活環境、健康、福祉」についての現在の取り組み状況と今回のテーマである「地方創生」について説明があった後、市民の皆さんから質問・意見・要望を伺いました。

市長の説明と市民の皆さんから出された「意見等」のうち、主なものを報告します。

**市長説明** 産業については、枕崎水産加工業協同組合の再資源化施設の化成工場が8月に稼働した。枕崎ブランドの販売関係では、アンバサダー協定を結んでいる博多大丸との取り組みで、10月26日、27日の2日間、枕崎の水産加工品等やお茶の販売を実施した。また、11月13日から30日までの期間に開催される九州特産品のフェアに市内企業3社が出店する計画もあり、博多大丸との関係も深まってきた。

学校施設については、小中学校に空調設備が設置された。また、プログラミング教育を支えるタブレットが小学校に10月から導入された。

7月から9月にかけて開催した第2回枕崎国際芸術賞展は期間中に4477名の入館者を迎えて実施することができた。

今年から取り組んでいる「高血

球や高校野球の合宿誘致、全国の大学野球やノンプロのキャンプ誘致をができないかと考えている。

## 木質バイオマス発電

**質問** 枕崎のエネルギー施設（発電所等）について、詳しく教えてください。

**回答** 来年10月、仁田浦に木質バイオマスの発電所ができる。基本的には発電所ができて九電に売電するが、今、全国各地で電力小売会社を立ち上げている所がある。福岡県みやま市では、電力小売会社を地域に立ち上げ、電力を地域の企業や一般家庭等に売電して収益を上げ、その収益の中からまちづくりに活用するビジネスモデルがある。県内では、いちき串木野市、日置市、肝付町が既に取り組んでいる。立ち上げたばかり



▲11月19日、金山センター

庄ゼロの街 枕崎」プロジェクトについては、市内に血圧計を設置して市民の皆さんに血圧測定を勧められている。また、高齢者、障害者に対するタクシージェット助成の取り組みも10月からスタートした。申請率は約30%にとどまっているが、使用実績を検証することにも、さらなる利用促進を図る。

そのほかの生活面では、防災行政無線のデジタル化整備も順調に進んでいる。また、枕エゴプロジェクトの中でこみの減量化にも努めている。

地方創生については、5年前の地方創生総合戦略は、全国的な人口減少、少子化、高齢化、東京一極集中の是正を目的としたものであったが、この5年間で地方の人口減少は止まらず、東京一極集中は加速している。

本市でも「第1期 枕崎市地方創生総合戦略」を策定し5年間進

でビジネスとして動いてない所もあるようだが、可能性が非常に大きいと感じている。

## 観光

**意見** 現在、枕崎の観光は素通りされる場所であるので、短期ではなく長期で泊まってもらう人を多く集めないといけない。

**回答** 長期で滞在できる形の観光で人を呼び込むことは大事だと考えている。見る所や実際に活動する所をしっかりとついできたい。

**意見** 5月に火之神公園に行ったら約35張りほどのテントがあった。県外の遠くから来ている人もいる。定住者を増やすことはもちろんだが、来る人を増やすことも必要である。

**回答** 火之神公園は枕崎にとつて相応な強みだと思っている。もつとキャンプをする人たちが集まってくるような仕組みを考えている。せっかく来ているのになぜお金を取らないのかという意見も聞くが、無料でいいのでたくさん来てもらい、来た人たちが枕崎で消費する、そのための仕組みをつくらうと思っている。

## タクシージェット

**質問・要望** タクシージェットの申請率が約30%ということについて

# 日本一幸せな2万人のまちを目指して ～第3回「市長と語る会」～

10月31日・立神センター 11月5日・城山センター 8日・市民会館 15日・別府センター 19日・金山センター

めてきたが、国の人口推計を見ると、平成27年の国勢調査人口2万2046人が令和2年には2万281人と5年間で1765人減少する見込みとなっている。15歳から64歳（生産年齢）は、平成27年1万1655人から令和2年には9854人となっており、減少数が1801人と見込まれている。つまり、この生産年齢人口の減少分が全体の人口の減少分となっている。

この層は、地域の所得、生産を支える層であるため、この層の減少がそのまま地域経済力の減少につながってしまう。人口の減少については、若者の多くが市外に進学・就職しているという状況を考えると、簡単には止められない。この層の人口が減っても総所得が維持される、人口は減少しても生産量が維持される、加えて、地域の付加価値を上げる施策として、地域から出て行くコストを地域内に留めるということが地域経済の活性化につながる。

具体的には、①地域内での消費を増やす（例えば、地場の魚、野菜、果物を積極的に消費するなど）、②外に出て行くエネルギーコストを地域で循環させる、③市外から枕崎の企業に通勤している従業員に枕崎に住んでもらうなど、人口減少をカバーしていくことが考えられる。また、④働きたい女性が活躍できる環境を整

## 女性の雇用拡大

**要望** 枕崎の女性は我慢強く元気で働き者である。女性に役職を与え、時間をかけて育てれば、枕崎も発展する。しっかりと見て評価してほしい。ベースになるものがないと女性の雇用も難しいと思うので、そういうものをつくっていただきたい。

**回答** 私は庁内で女性の活躍をしっかりと見ていかないといけないし、市内で活躍されている人たちがビックアップしていくことが私の仕事だと思っているので、しっかりと取り組んでいきたい。

## 子育て支援

**質問** 枕崎の魅力は何か。枕崎に住んでいて、南さつま市などに移り住んだ人が子育て支援の手当などがものすごく違うと言っている。何を目的にして枕崎に来てほしいという方針を定めているのか。

**回答** 子育てに限って言うと、「教育の質」が枕崎の強みだと思っている。今4校区で、4小4中で連携された教育がなされていて、地域で言うと保育園から小学校、中学校という一貫した流れがあり、地域の子育ての流れができてきつつある。そこをアピールしたいといけない。お金で解決することとはこの自治体もできる。それ

備し、女性の雇用拡大を図ること、女性の所得を上げ、経済活性化につなげる。そして、⑤広域で取り組み、アジアの富裕層など外から消費者を連れて来る。

これまでの5年間の総合戦略では、Uターン、Iターン移住対策、婚活、イベントなどが中心だったが、これらの施策のみでは効果が上がらないということは明らかになっている。第2期総合戦略においては、経済を地域内で循環させることで総所得維持・拡大、産業の維持・拡大を図るため、生産年齢人口や総所得、総生産額などに数値目標を掲げ、その目標達成につながる施策のKPI（重要業績評価指数）を設定することが必要になってくる。

私が考えている施策の一つとして、枕崎の強みである「野球」を活用したまちづくりがある。少年野



▲11月15日、別府センター

よりここで教育を受けさせた方がいいという価値をつくるべきだと思っっている。

## その他

**要望** 地域おこし協力隊をうまく活用してもらいたい。現在も3名枕崎に来ていただいて頑張っているが、なかなか市のニーズがうまく見えないとか、いろいろ葛藤しながら活動している。明確な目標があれば地域おこし協力隊の人もそれを目標にそれなりの熱意をもって来てくれるし、それに向かってまい進してくれる。

**意見** 市民の中にも多くのUターンやIターン者がいて、さまざまな人脈を持っているので、いろいろな市民の意見を吸い上げてもらえたらと思う。地方創生は、スピード感を持って、市民に見える形で取り組まれることが絶対条件だと思うので、市民の声を吸い上げる仕組みづくりが大事だと思う。

以上、主なものを報告しましたが、この他にもたくさんのご質問・ご意見・ご要望をいただきました。

今後「市長と語る会」を開催する予定ですので、皆さんのご参加をお待ちしております。

■問合せ 総務課秘書広報係  
TEL 7211111（内線211）